

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年11月14日

【四半期会計期間】 第19期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 株式会社ライドオンエクスプレスホールディングス

【英訳名】 RIDE ON EXPRESS HOLDINGS Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 江見 朗

【本店の所在の場所】 東京都港区三田三丁目5番27号

【電話番号】 03(5444)3611

【事務連絡者氏名】 取締役副社長 渡邊 一正

【最寄りの連絡場所】 東京都港区三田三丁目5番27号

【電話番号】 03(5444)3611

【事務連絡者氏名】 取締役副社長 渡邊 一正

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第18期 第2四半期 連結累計期間	第19期 第2四半期 連結累計期間	第18期
会計期間		自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高	(千円)	9,416,432	9,744,925	20,503,988
経常利益	(千円)	376,581	510,360	1,079,536
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	228,423	318,424	665,877
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	65,984	309,892	455,287
純資産額	(千円)	4,831,357	5,437,491	5,232,688
総資産額	(千円)	9,143,764	9,763,377	9,906,332
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	21.75	30.30	63.59
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	21.15	29.90	62.32
自己資本比率	(%)	52.8	55.7	52.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	219,036	436,856	583,141
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	346,561	257,579	586,495
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	312,618	328,460	522,945
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	3,139,128	3,342,007	3,492,439

回次		第18期 第2四半期 連結会計期間	第19期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	20.26	14.68

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループにおいて営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間（2019年4月1日～2019年9月30日）における我が国経済は通商問題の動向や海外経済の先行き、金融資本市場の変動による影響が懸念されるものの、政府の経済対策や日本銀行の金融政策を背景に、雇用・所得環境の改善が続くなど、景気は緩やかな回復が続くことが期待されます。

当社グループの属する宅配食市場におきましても、高齢化社会の進展、女性の社会進出、小規模世帯の増加、インターネット注文の普及等により、今後も堅調に推移すると考えられます。

このような状況の下、当社グループは「ご家庭での生活を『もっと美味しく、もっと便利に』」を実現するために、オンデマンド（お客様の要求に応じて即時にサービスを提供する）でのサービス提供を軸とした「オンデマンドプラットフォーム」の構築に向けた事業活動に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間においては、ゴールデンウィークの大型連休による特需効果、WEB注文促進の各種施策の効果などにより、宅配寿司「銀のさら」、宅配御膳「釜寅」の売上は好調に推移しております。一方で、当社グループのブランドで使用可能な自社電子ポイント「デリポイント」の発行による利用機会の創出及びWEB注文促進の強化等により販管費は増加しておりますが、売上高の増加に伴う粗利増、生産性の向上等により営業利益は前年同四半期と比べ増加いたしました。

また、前年同四半期においては、当社の連結子会社であるライドオン・エースタート1号投資事業有限責任組合の投資有価証券売却益の計上があった一方で、当第2四半期連結累計期間においては、連結子会社であるライドオン・エースタート2号投資事業有限責任組合が保有する投資有価証券の評価減の計上があったものの、経常利益は前年同四半期と比べ増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は売上高9,744百万円（前年同四半期比3.5%増）、営業利益514百万円（前年同四半期比66.1%増）、経常利益510百万円（前年同四半期比35.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益318百万円（前年同四半期比39.4%増）となりました。

主な活動状況は以下のとおりです。

a. 店舗・拠点

FCを含むチェーン全体の店舗数においては、宅配御膳「釜寅」5店舗（直営店2店舗、FC店3店舗）を出店し、宅配寿司「銀のさら」1店舗（FC店）、宅配御膳「釜寅」1店舗（FC店）を閉店いたしました。また、直営とFCの区分が変更されたことにより、直営店は宅配寿司「銀のさら」4店舗、宅配御膳「釜寅」4店舗、宅配寿司「すし上等！」4店舗の減少となっております。

これにより当第2四半期連結会計期間末における店舗数は747店舗（直営店266店舗、FC店481店舗）、拠点数は368拠点（直営店100拠点、FC店268拠点）となりました（ ）。

当社グループのチェーンでは、商品を宅配するための事業所を全国に配置しており、これを「拠点」と呼んでおります。また、消費者に提供するメニューの種類ごとに設置される設備（宅配寿司「銀のさら」や宅配御膳「釜寅」等）、及び「ファインダイン」における消費者が選ぶことのできる提携レストランのラインナップ（メニュー）毎の配送機能を「店舗」と呼び、一つの「拠点」に複数の「店舗」を設置することがあります。

b. 各ブランドの状況

商品戦略としましては、期間限定商品として、宅配寿司「銀のさら」では、人気の高い「大生エビ」、「トロサーモン」を使用した商品を提供いたしました。

宅配御膳「釜寅」においては、お客様からのニーズに応え、6月より「牛タン釜飯」、「炭火焼豚肉釜飯」といった食べ応えのある商品の提供、ランチメニューの拡充を実施いたしました。

宅配寿司の第2ブランドである「すし上等！」においては、手巻き寿司や丼といったバラエティメニューを提

供し、「銀のさら」との差別化を図るとともに、様々なお客様のニーズに応えることで、新たな顧客層の開拓を進めております。

販売戦略としましては、繁忙期であるゴールデンウィーク、お盆期間のテレビCMとして、素材の活きの良さを表現した「上司編」、「バレエ編」の放映を実施いたしました。

WEBにおける販売促進においては、4月にはWEB会員を対象に、デリポイントの「GW500ptプレゼントキャンペーン」の実施、6月には公式アプリからのご注文でデリポイントが注文金額の10%貰える、「デリポイント10%ポイントバックキャンペーン」を実施、7月にはInstagram、Twitterで「銀のさら」に関する写真を投稿することでオリジナルグッズが貰える「『銀のさら』SNSキャンペーン フォトコン2019」を実施、また、「銀のさら」、「釜寅」、「すし上等!」アプリにおいて、デリポイントが毎日貰える「ゲーム機能」を追加するなど、WEB会員、顧客に向けた販売促進及び認知度向上のための施策を実施いたしました。

既存顧客に向けては、顧客属性にあわせた計画的なDMの実施、メールマガジンの配信、LINE公式アカウントからの情報発信、公式アプリからのプッシュ通知等、CRM()の確立に向けた活動を行うとともに、WEBからの注文促進に向けたDMを実施しております。

Customer Relationship Managementの略。顧客接点での情報を統合管理し、顧客との長期的な関係性を構築、製品・サービスの継続的な利用を促すことで収益の拡大を図るマーケティング手法。

宅配寿司「銀のさら」においては、テイクアウト併設型店舗の検証を実施しております。従来のデリバリーでの注文に加え、テイクアウトでの需要に応えることで、利便性の向上と新たな顧客層の開拓を進めてまいります。また、7月には宅配寿司「銀のさら」、宅配御膳「釜寅」の世界観をそのままに、高級感あふれる店内で食事をお楽しみいただける、「銀のさら」、「釜寅」のレストラン併設型店舗をオープンしております。

提携レストランの宅配代行サービス「ファインダイン」においては、「ファインダイン」と他の自社ブランドとの複合化による更なる生産性の向上を目指し、受注対応、調理対応、配送におけるシステム、オペレーションの構築を行っております。販売促進においては、「お友達紹介クーポン」、「サンキュークーポン」機能により、新規顧客の獲得とリピート利用の促進に努めるとともに、ファインダイン公式ブログにて、毎月お得なクーポンや情報を配信するなど、顧客接点の強化及び利用促進のための施策を実施しております。

財政状態の分析

(資産)

資産は、前連結会計年度末に比べて142百万円減少し、9,763百万円(前連結会計年度末残高9,906百万円)となりました。これは主として、現金及び預金が150百万円、季節的な変動に伴い売掛金が126百万円減少した一方で、有形固定資産の取得により148百万円増加したことによるものであります。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べて347百万円減少し、4,325百万円(前連結会計年度末残高4,673百万円)となりました。これは主として、長期借入金が223百万円、季節的な変動に伴い買掛金が176百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて204百万円増加し、5,437百万円(前連結会計年度末残高5,232百万円)となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純利益318百万円の計上による増加、配当金105百万円の実施により減少したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は前連結会計年度末より150百万円減少し、3,342百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、436百万円の収入(前年同四半期は219百万円の支出)となりました。主な内訳は、税金等調整前四半期純利益514百万円、非資金項目である減価償却費127百万円を計上した一方で、仕入債務176百万円、未払金83百万円の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、257百万円の支出(前年同四半期は346百万円の支出)となりました。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出199百万円、無形固定資産の取得による支出77百万円が生じたことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、328百万円の支出(前年同四半期は312百万円の支出)となりました。主な内訳は、長期借入金の返済による支出223百万円、配当金の支払いによる支出104百万円が生じたことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,634,000	10,634,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	10,634,000	10,634,000		

(注) 提出日現在発行数には、2019年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権(ストックオプション)の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年9月30日		10,634,000		982,451		886,071

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社エミ A & Y	岐阜県岐阜市東鶉四丁目41番1号	2,113,700	20.11
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,215,700	11.57
BNYM NON-TREATY DTT (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	225 LIBERTY STREET, NEW YORK, NEW YORK 10286, USA (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	679,800	6.47
江見 朗	岐阜県岐阜市	678,000	6.45
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	424,500	4.04
BNYM TREATY DTT 15 (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	225 LIBERTY STREET, NEW YORK, NEW YORK 10286, USA (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	266,000	2.53
STATE STREET CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OD11 (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	338 PITT STREET SYDNEY NSW 2000 AUSTRALIA (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	218,000	2.07
松島 和之	東京都港区	213,100	2.02
富板 克行	東京都港区	173,900	1.65
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	149,400	1.42
計		6,132,100	58.35

(注) 2019年10月21日付で公衆の縦覧に供されている変更報告書において、テンパード・インベストメント・マネジメント・リミテッド(Tempered Investment Management LTD.)が、2019年10月1日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2019年9月30日現在における実質所有株式数に確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
テンパード・インベストメント・マネジメント・リミテッド(Tempered Investment Management LTD.)	カナダ国ブリティッシュコロンビア州北バンクーバー チャドウィックコート(Chadwick Court, North Vancouver, BC Canada) 220-145	1,145,700	10.77

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 124,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,506,800	105,068	権利関係に何ら限定のない、当社における標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 2,300		(注)
発行済株式総数	10,634,000		
総株主の議決権		105,068	

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式 88株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
(自己保有株式) 株式会社ライドオンエクスプレスホールディングス	東京都港区三田三丁目 5番27号	124,900		124,900	1.17
計		124,900		124,900	1.17

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,492,439	3,342,007
売掛金	962,391	836,373
有価証券	1,000,000	1,000,000
商品	35,523	44,960
原材料及び貯蔵品	419,423	352,172
その他	576,440	603,186
貸倒引当金	28,629	17,662
流動資産合計	6,457,589	6,161,037
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	490,973	597,916
その他（純額）	190,240	232,177
有形固定資産合計	681,214	830,093
無形固定資産	368,851	379,730
投資その他の資産		
投資有価証券	1,436,271	1,422,026
繰延税金資産	275,258	278,547
差入保証金	632,937	626,325
その他	134,572	164,188
貸倒引当金	80,362	98,572
投資その他の資産合計	2,398,677	2,392,515
固定資産合計	3,448,743	3,602,339
資産合計	9,906,332	9,763,377
負債の部		
流動負債		
買掛金	942,550	765,598
1年内返済予定の長期借入金	440,280	440,280
未払金	842,209	797,068
未払法人税等	135,988	233,833
ポイント引当金	91,614	141,145
株主優待引当金	55,432	28,472
その他	390,402	378,374
流動負債合計	2,898,477	2,784,773
固定負債		
長期借入金	1,276,129	1,052,639
資産除去債務	161,157	155,618
その他	337,879	332,855
固定負債合計	1,775,166	1,541,112
負債合計	4,673,643	4,325,886
純資産の部		
株主資本		
資本金	982,451	982,451
資本剰余金	886,071	886,071
利益剰余金	3,528,276	3,741,610
自己株式	200,150	200,150
株主資本合計	5,196,648	5,409,983
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	34,080	25,535
その他の包括利益累計額合計	34,080	25,535
非支配株主持分	1,959	1,972
純資産合計	5,232,688	5,437,491
負債純資産合計	9,906,332	9,763,377

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	9,416,432	9,744,925
売上原価	4,749,426	4,797,828
売上総利益	4,667,006	4,947,097
販売費及び一般管理費	4,356,969	4,432,099
営業利益	310,036	514,997
営業外収益		
受取利息	1,514	1,317
固定資産売却益	29	29,672
業務受託料	1,666	1,666
投資有価証券売却益	107,729	-
その他	8,661	2,911
営業外収益合計	119,602	35,568
営業外費用		
支払利息	2,296	1,806
固定資産除売却損	5,859	3,450
加盟店舗買取損	41,623	-
投資事業組合運用損	2,921	2,242
投資有価証券評価損	-	29,999
その他	356	2,706
営業外費用合計	53,057	40,205
経常利益	376,581	510,360
特別利益		
固定資産売却益	-	2,881
受取保険金	3,841	3,777
特別利益合計	3,841	6,658
特別損失		
リース解約損	4,932	2,191
特別損失合計	4,932	2,191
税金等調整前四半期純利益	375,490	514,828
法人税等	146,973	196,413
四半期純利益	228,517	318,414
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失()	93	9
親会社株主に帰属する四半期純利益	228,423	318,424

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	228,517	318,414
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	162,532	8,521
その他の包括利益合計	162,532	8,521
四半期包括利益	65,984	309,892
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	65,975	309,879
非支配株主に係る四半期包括利益	8	13

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	375,490	514,828
減価償却費	118,401	127,877
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,875	7,243
株主優待引当金の増減額(は減少)	32,567	26,960
ポイント引当金の増減額(は減少)	32,727	49,530
受取利息	1,512	1,317
支払利息	2,296	1,806
投資有価証券売却損益(は益)	107,729	-
投資有価証券評価損益(は益)	-	29,999
固定資産売却益	29	32,554
固定資産除売却損	5,810	3,450
加盟店舗買取損	41,623	-
売上債権の増減額(は増加)	30,360	126,017
たな卸資産の増減額(は増加)	63,174	57,814
未収入金の増減額(は増加)	139,812	31,633
仕入債務の増減額(は減少)	20,145	176,951
未払金の増減額(は減少)	310,774	83,115
未払消費税等の増減額(は減少)	174,644	1,099
前受金の増減額(は減少)	3,833	-
その他	13,022	95,046
小計	24,878	535,357
利息の受取額	1,962	1,315
利息の支払額	2,280	1,574
法人税等の支払額	243,596	98,241
営業活動によるキャッシュ・フロー	219,036	436,856
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	166,516	199,719
有形固定資産の売却による収入	77	50,743
無形固定資産の取得による支出	90,109	77,052
投資有価証券の取得による支出	233,745	30,000
投資有価証券の売却による収入	148,364	-
その他	4,632	1,550
投資活動によるキャッシュ・フロー	346,561	257,579
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	217,560	223,490
株式の発行による収入	10,140	-
配当金の支払額	105,151	104,970
長期借入れによる収入	200,000	-
自己株式の取得による支出	200,047	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	312,618	328,460
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,347	1,248
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	874,869	150,432
現金及び現金同等物の期首残高	4,013,997	3,492,439
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,139,128	3,342,007

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
雑給	1,300,146千円	1,289,547千円
給与手当	778,893千円	803,409千円
減価償却費	111,726千円	121,290千円
貸倒引当金繰入額	1,873千円	7,242千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金	3,139,128千円	3,342,007千円
現金及び現金同等物	3,139,128千円	3,342,007千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	105,227	10.00	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	105,090	10.00	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、宅配事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	21円75銭	30円30銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	228,423	318,424
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	228,423	318,424
普通株式の期中平均株式数(株)	10,501,890	10,509,012
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	21円15銭	29円90銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	295,847	141,323
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月14日

株式会社ライドオンエクスプレスホールディングス
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	桐	川	聡
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小	野	潤

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ライドオンエクスプレスホールディングスの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ライドオンエクスプレスホールディングス及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。